

食品と放射能の現状とその理解



震災直後も動じず
開花した日本三大巨桜
三春の滝桜

除染情報プラザ 登録専門家

自然科学研究機構 核融合科学研究所: 佐瀬 卓也 (福島県出身)

自己紹介：佐瀬卓也

- 1972年 福島県生まれ

- 弘前大学農学部：りんご病原菌の研究

- 名古屋大学アイソトープセンター

- 徳島大学アイソトープセンター

＜研究や病院で使う放射線から、体を守る研究＞

- 2011年：福島原子力災害支援に従事

- 県放射線対策アドバイザー(2012年)、除染情報

- プラザ登録専門家、大塚製薬工場研究員(～2014年)

- 自然科学研究機構 核融合科学研究所：新エネルギー研究

専門：放射線の可視化、放射能定量、放射線教育



私は20年間ほぼ毎日、放射線や放射性物質に接して来ましたが、適切な防護策を講じることで、日々健康を維持し、元気な息子にも恵まれました。

いくつかの点に配慮すれば、放射線リスクを限りなく小さくし、食に関する安全を確保し、健やかな生活を送ることが、福島県内においても充分可能です。

今日のキーワード：

「物がある」と「影響がある」は違う。
大切なのは「トータルの量」。

福島原子力災害：複数の原子炉が 制御不能に陥った前代未聞の緊急事態

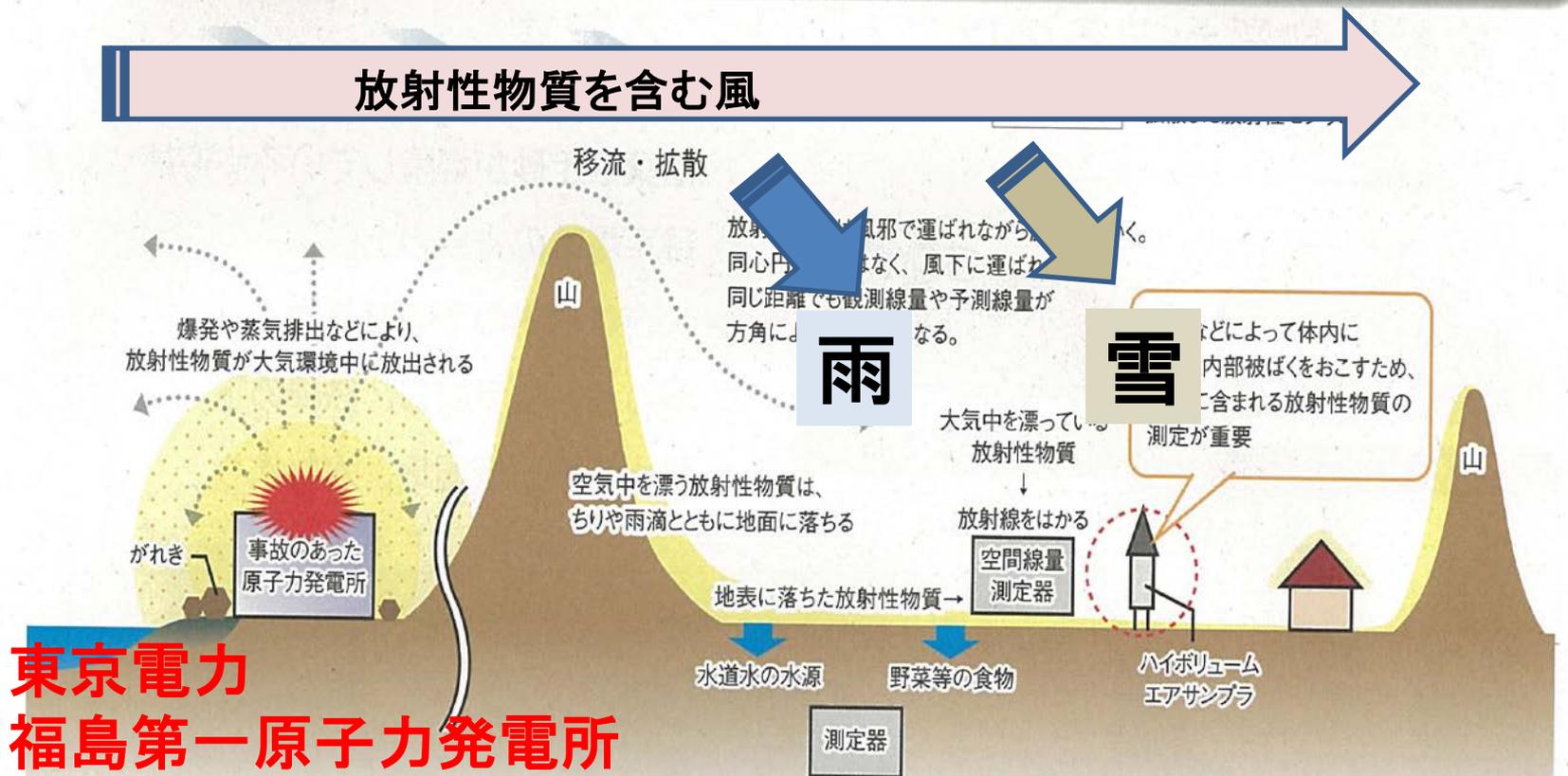


3号機爆発後の福島第一原子力発電所：3月14日

事故の収束(廃炉)と使用済み燃料(高レベル放射性廃棄物)
の処理が大変頭の痛い課題 <世界レベルの難題>

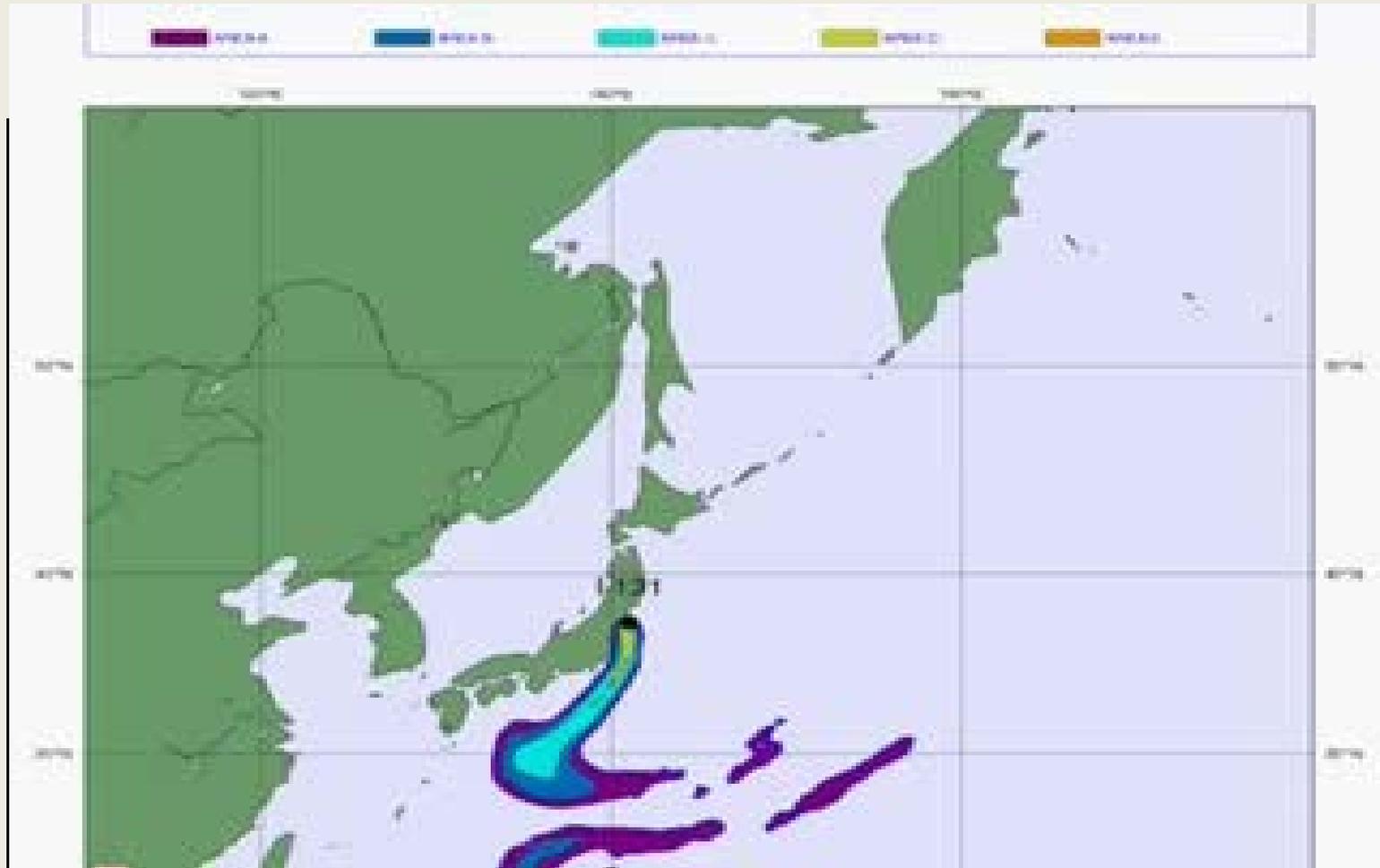
福島第一原子力発電所の事故で、放射線を出すホコリが飛び散った。

① 放射性セシウムによる環境汚染の模式図



放射線・除染講習会テキスト(編集:福島県災害対策本部、監修:原研機構、徳島大学)より

そのホコリは日本中に



出典: オーストリアZAMGの2011年4月上旬シミュレーション結果

不幸中の幸いですが、放出は徐々に収まった

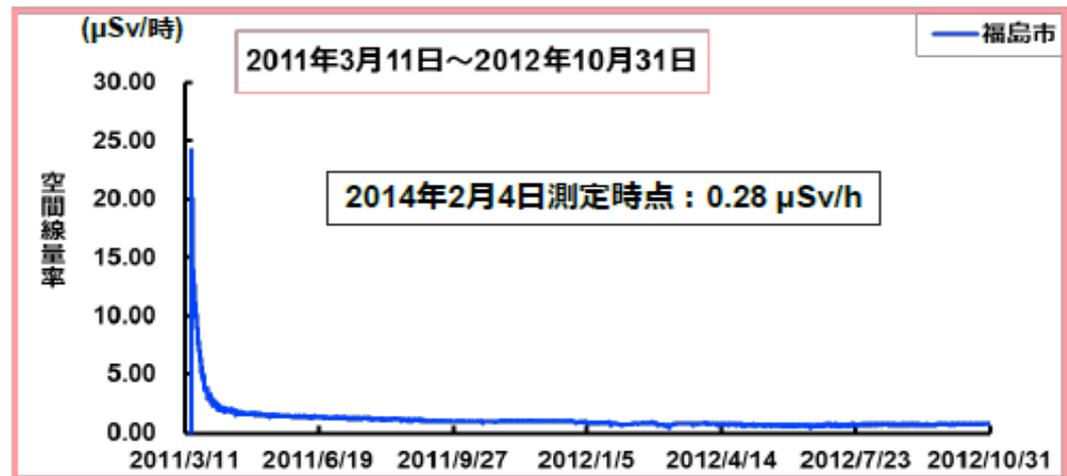
空間線量率の
時空間分布

福島県における空間線量率の経時変化



2011年3月11日、12日は
データなし

μSv/時：マイクロシーベルト/時



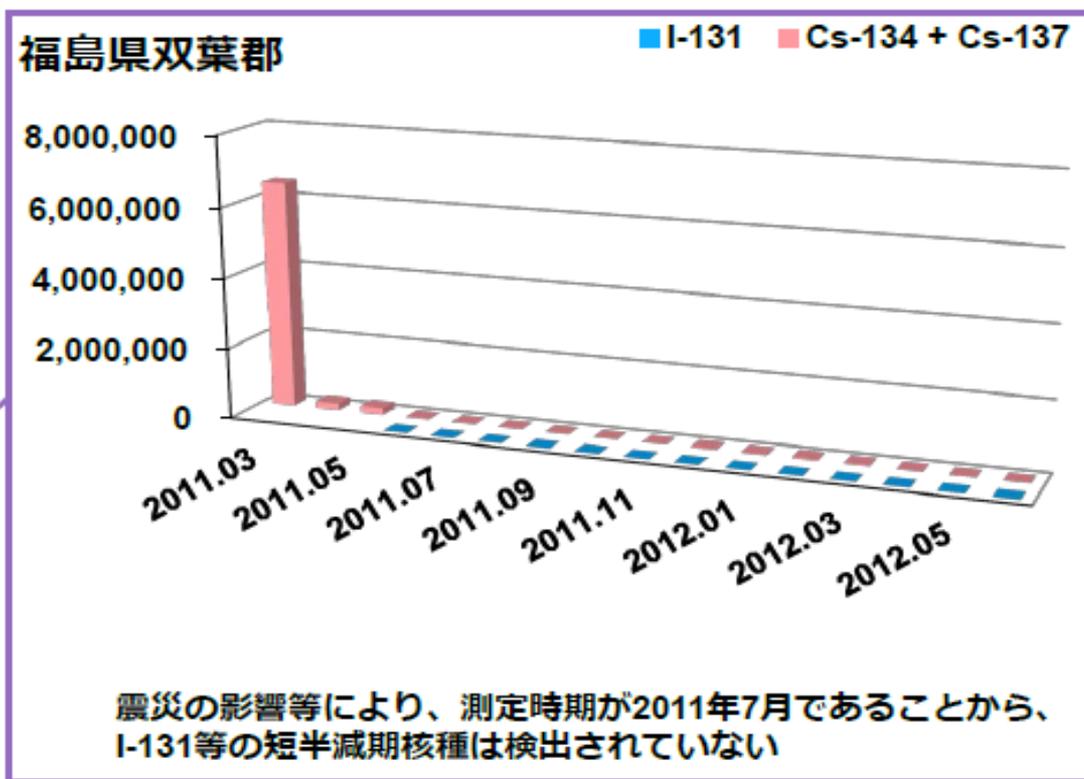
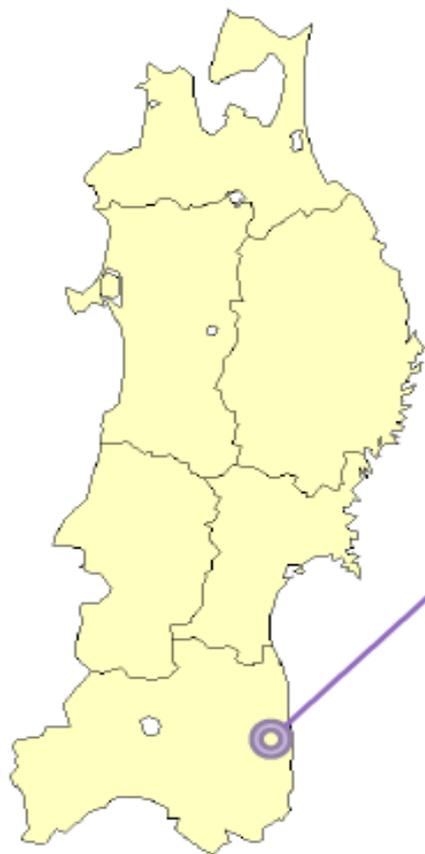
福島県原子力災害情報より作成

降った放射性物質の量も早々に減少した。

降下物中の
放射性物質

時間経過（福島県）

（単位： MBq/km²/月）



MBq/km²/月：メガベクレル平方キロメートル/月

文部科学省発表：環境放射能水準調査結果（月間降下物）より作成

放射線のイロハを確認します



福島のみ芸品「起き上がり小法師」のぬいぐるみ

放射線は...

- ・ 見えない
- ・ さわれない
- ・ におわない
- ・ あじがない
- ・ 聞こえない
- ・ 通りぬける
- ・ こわい...まるで



何と、放射線は
私たちのまわりに
今もいるらしい! ?

「ゆうれい」
みたいです。

でも、「そくていき」を
つかうと測ることが
できます。

